



2011年3月11日、東日本大震災が発生したちょうどその日、突然の病により私は両手足を失いました。

あれから6年、家族をはじめ多くの方に支えていただき、今もこうして元気に過ごしています。

不勉強なことですが、この状態になって初めて、リハはもちろんのこと、心のケアもしてくださる「作業療法士」という職種があることを知りました。

今回の応募も、退院当初からお世話になっている作業療法士の方に勧めていただき、能動義手に筆を挟んで何とか書き上げたものです。

手足を失って不自由ではありますが、この状態になってから多くの方と出会い、温かい励ましをいただきながら、義足で歩いたり、義手で絵や手紙を書く等、自分にできることをひとつでも増やしたいと頑張っています。



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



麓七重「桜木内川堤の晴天」

気分転換にいいのではないかと、昔から好きだった絵を本格的に始めました。

絵を描くようになり、いろいろな出会いがあったり、楽しい出来事もあったり、今ではすっかり生活の一部になって、日々のリハにもつながっています。

今回、入賞できるなんて考えもせず、リハの先生方に勧められるがままに応募したのですが、掲載されると聞いてびっくりすると同時にとても嬉しいです。普段描いている絵もいろいろな方が喜んでくださるので、これからもこれを励みにもっといい絵を描いていこうと思います。